

日本の歴史 9

稲垣 宏行

『教科書には絶対書かれない古代史の真相』 松重楊江, 中原和人 著 (たま出版) 271p. 20cm

歴史は一つの現象に過ぎなくても、それに対する学説は幾つも存在します。中でも本書は、現在の常識では考えられないような事例を数多く取り扱っています。チンギスハンや義経軍の兵士はアイヌ人であったこと、聖徳太子の正体は百済の威徳王昌だったこと、阿蘇山頂にシュメール文明の創世碑があったことなどが挙げられています。宇佐八幡の地名がヒッタイト王国の首都ハットゥサに酷似しているなど、一見無関係に思える国と繋がりがあるといふ事例も本書で紹介されています。

このように本書では、中国など地続きの大陸だけでなく、島国日本にまでアイヌ系などの混血種や彼らから伝播した文化の存在があったことを示しています。日本の歴史が時代の変遷によって幾度も改ざんされたことにも触れ、そういった事例も取り上げ事実を明らかにすることで、歴史の真実を知ることの大切さを私たち読者に呼びかけています。

209.3-Mat

『さむらいウィリアム：三浦按針の生きた時代』

ジャイルズ・ミルトン 著 築地誠子 訳 (原書房) xi, 396p. 20cm

1600 (慶長5年) に豊後 (大分県) に漂着したオランダ船リーフデ号の航海は過酷を極めたとされています。悪天候や疫病、アフリカでの原住民の襲撃などの苦難がウィリアムたちを襲い、多くの乗組員が命を落としました。日本に漂着した後も、言語や文化・慣習の違い、既に在住していたカトリック教徒との対立など困難な状況に直面しました。しかし、徳川家康の庇護の下、ウィリアムは不屈の精神と明晰な頭脳で乗り切り、最後には三浦按針の名を与えられ、異国人でありながら日本の武士 (さむらい) となりました。

本書はそんなウィリアムたちの生き様が、迫力をもって描かれ、あたかも一つの冒険譚であるかのような爽快さも感じられ、著者の表現力と構想力に驚嘆させられます。また、見開きにもウィリアムたちの航海経路が掲載されています。日英交渉や日蘭交渉の観点から、是非ご一読をお奨めします。

210.5-Mil

『集中講義 織田信長』 小和田哲男 著 (新潮社) 8, 244p. 16cm

織田信長は戦国武将の中でも一際異彩を放つ人物でした。経済力重視の政策、武力よりも情報収集能力を重視した戦略、秀吉・光秀を始めとする新参武将の優遇など、いずれも戦国時代ならば考えられないほどの斬新な発想でした。その一方、信長は比叡山の焼き討ち、古参の家臣の追放、些細な不始末での家臣の処刑など敵味方問わず容赦がないため、冷酷で無慈悲、独裁者だという人物像も彼にはつきまっています。しかし、文献を繙き時代背景を検証していけば、必ずしもそれが正確ではないと著者は述べています。例えば独裁者と言われつつも、信長は家臣の意見に耳を傾けていたところもあったと言います。比叡山においても実際に焼き討ちしたのは麓までで、しかも実行前に比叡山側に警告を発していたと著者は述べています。また、家臣に対する容赦のなさも、戦国時代という生存競争の厳しい時代背景を考慮すれば致し方ない面もあったことを著者は指摘しています。本書は、今まで見えなかったもう一つの信長像を私たちに紹介しています。

289.1-Owa



いながき ひろゆき (係・情報サービス課)